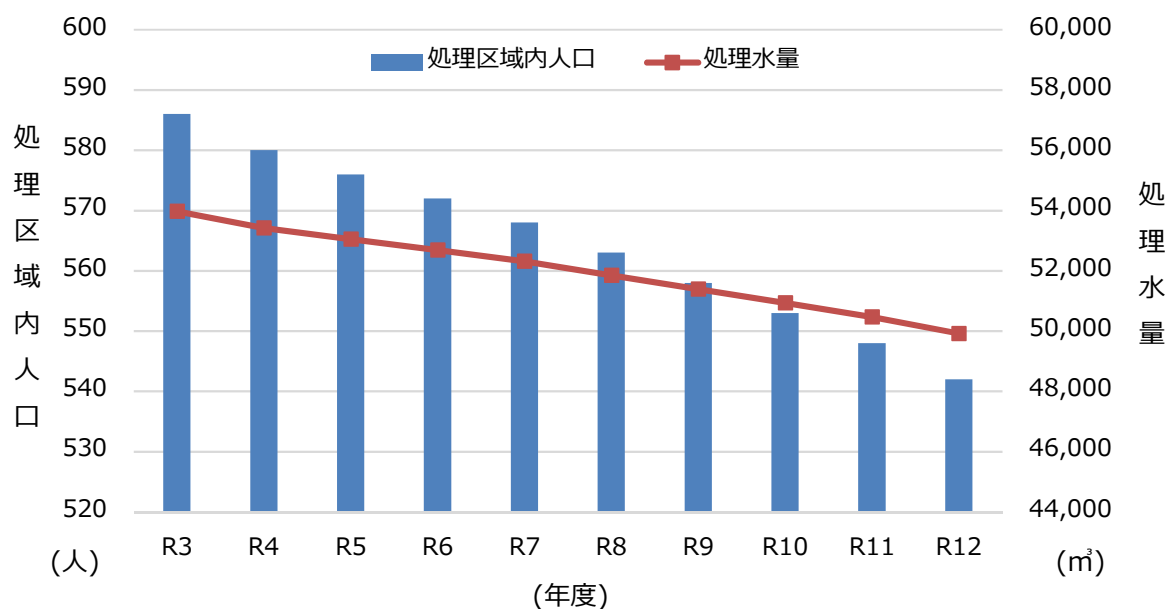


## 第3章 将来の事業環境と課題

### 1 将来予測と課題

#### [処理区域内人口と処理水量の予測]

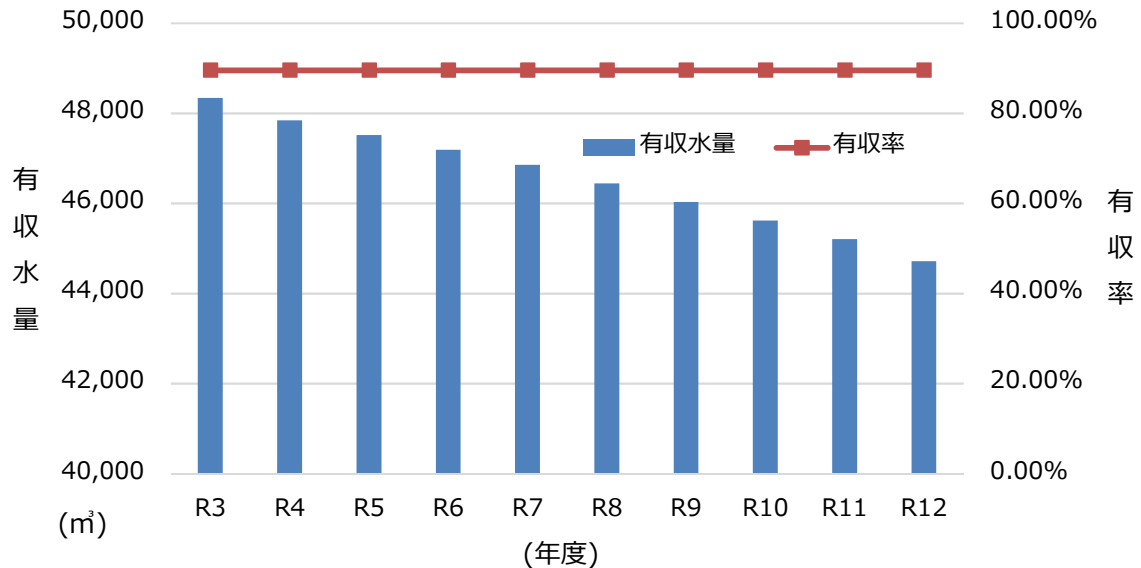
農業集落排水地区の将来の汚水処理区域内人口と処理水量については、過去の人口動態をみると、既に緩やかに減少してきており、今後もその傾向は続くものと推測されます。こうした人口推計を踏まえ、将来の汚水処理水量も減少していくことが想定されることから、限られた財源の中で効率的かつ継続的な農業集落排水事業の運営に努める必要があります。



処理区域内人口の推計については、守谷市人口ビジョン(平成28年2月)の推計値を基に算出された行政区域内人口から、公共下水道事業の汚水処理人口の推計値を差し引いた値を使用しています。

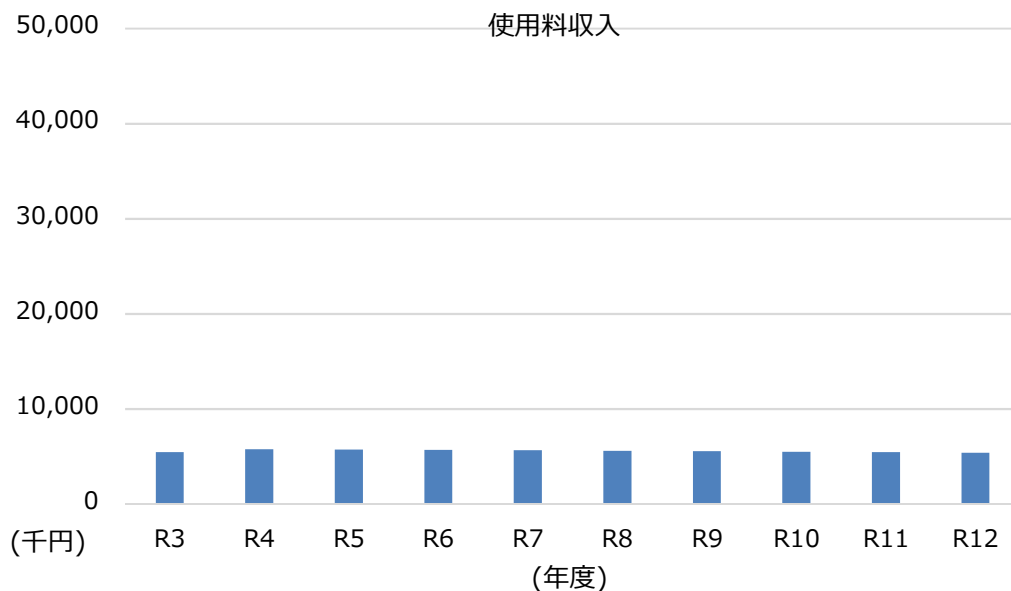
### [有収水量及び有収率の予測]

将来の有収水量については、処理区域内人口の推計と連動し、今後は減少していく見込みです。有収率については、処理水量及び有収水量が同程度減少していく見込みのため、横ばいで推移する見込みです。将来の有収水量の推移を注視し、維持管理費の適切な管理に努めていくことが必要です。



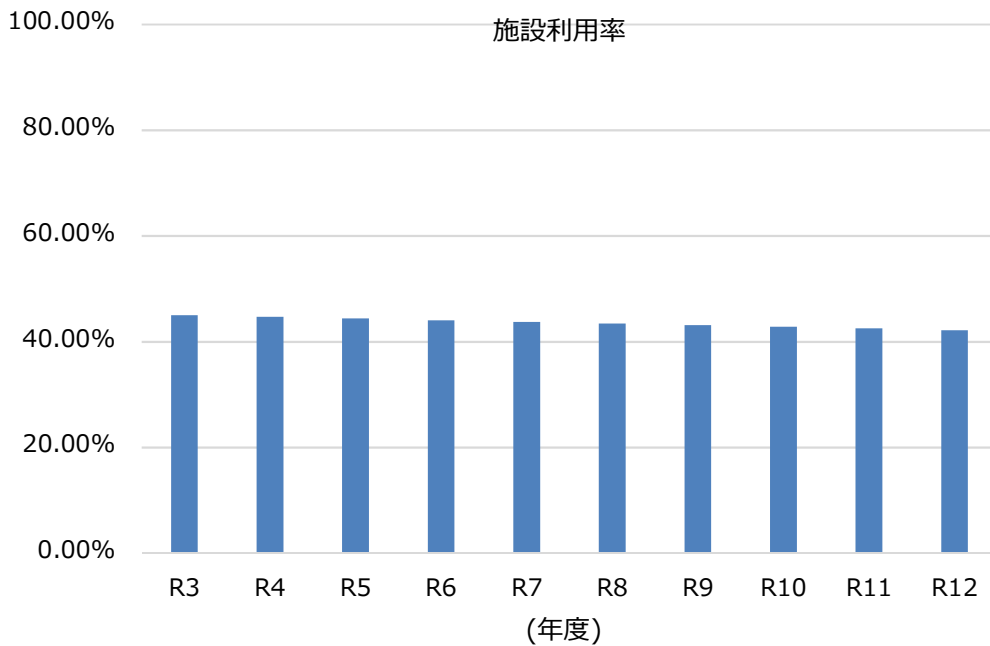
### [使用料収入の見通し]

将来の使用料収入の見通しについては、人口推計に沿って緩やかに減少していくものと推測されます。現状においても、経費回収率は低く、使用料収入だけでは事業費を賄えない状況です。使用料収入の減少は、同時に一般会計繰入金を増加を意味することから、費用の平準化や効率的な投資を踏まえた事業運営を行っていく必要があります。



## [施設の見通し]

施設の効率性を示す施設利用率は、現在においても処理能力の4割程度で、既存の施設の処理能力を最大限活かしきれていない状況です。将来の人口減少を踏まえると、施設効率は緩やかに減少していくことが想定されることから、将来的には、施設のダウンサイジングを踏まえた適切な施設能力について検討を行う必要があります。



## [組織の見通し]

農業集落排水事業については、公共下水道事業会計の職員が兼務で行っており、職員数の増加が見込めないため、引き続き現在の体制において業務を執行していかねばなりません。しかし、今後は農業集落排水事業の法適化（企業会計への移行）や施設の改築更新等、業務量の増加が見込まれるため、より効率的な事業運営が必要です。